

ことばというインフラ

～ことばの機能を保つために～

シンキング・バース

日本語研究班

ことばの錆を
メンテナンスする

ことばというツールをワタシたちは、人間社会のインフラの一つと考えています。「インフラ」は、「Infrastructure（インフラストラクチャー）」の日本的略語で、「基盤施設」とか「基本設備」と訳せます。

例えば、ワタシたちが電気や水、ガスや通信などを不便なく使えるのは、その供給を支える発電所や送電網、浄水場や水道管、ガスタンクやガス管、基地局や通信網などが無事に動いているからです。普段の生活でワタシたちは、それが無事かどうかなんて、余り気にしません。「あって当たり前」と、思っているせいでしょう。でも、災害とかで不便を感じると、急に騒ぎ立てます。

ワタシたちは、ことばというツールも、そういうインフラの一つに数えて良い、と思っています。生まれた時から身に付いているものではなく、生まれた後から習い覚えて身に付けるものだからです。

●「当たり前」から始まる劣化

ところで、ワタシはさっき、インフラは普段、災害でもない限り「あって当たり前」と思っていると書きました。でも、それを支えている人たちは、送電線に不具合はないとか、水道管から水漏れしていない

とか、メンテナンスを心掛けています。とても地味なお仕事ですが、万が一事故が起こったら、大騒ぎになるかもしれないからです。



ワタシたちは、ことばというツールも、インフラとして機能するためには、メンテナンスが必要と考えています。漏電や漏水が起こる原因の一つに、電線や水道管の劣化があるように、ことばの劣化は、思わぬ事故に繋がるかもしれません。

ことばの劣化は恐らく、「当たり前」と思っている感覚から始まります。お年寄りが「当たり前」と思っていることばの感覚が、若者には「当たり前」でなかったり、逆に若者の感覚が、お年寄りには受け入れられないことは良くあることです。年齢差だけでなく、男女間や地域間でも、「当たり前」のちがいが浮き立つことがあります。

ことばのメンテナンスは、相手のことばの「当たり前」に、細かくチェックを入れる《ことば狩り》ではありません。

「表現の自由」は、誰も侵害できないのです。ただ、インフラとしてのことばという立ち位置から見た時、差別語、ハラスメント語、ヘイト語等のほか、機能不全や意味不明なことばのメンテナンスは必要です。インフラとしてことばが成り立つための、最低限の錆落としは、いつの時代も必要なのです。

(2018年9月24日)

シンキング・バース新書

ことばというインフラ

2018年9月24日（初版）発行

著 者： シンキング・バース
日本語研究班

発行者： 遊佐 芳泰

発行所： **シンキング・バース**
〒021-0821

岩手県一関市三関字神田105番5号

電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。